

今日のトピック ドル円相場の動向 ドル高・円安の流れが加速

ポイント1 レンジ相場を上抜け

123円台前半まで上昇

■ドル円は5月26日の外国為替市場で、一時1ドル＝123円台前半まで上昇し、約7年10カ月ぶりとなるドル高・円安水準を回復しました。2月9日以降、118円台前半から122円付近までのレンジ相場が続いていましたが、明確にレンジを上抜けたことで、ドル高・円安の流れが加速したとみられます。

■ドル円は5月27日の日本時間午前中もおおむね123円台での推移が続いています。

ポイント2 ドル主導の相場展開

投機的な要素も加わる

■外国為替市場は、米国の利上げ開始時期や利上げペースを巡る思惑に左右されやすい、ドル主導の相場展開が続いています。先週末にイエレン米連邦準備制度理事会（FRB）議長が年内利上げの可能性を示唆したことや、このところの米経済指標の改善がドル買いにつながり、今回のドル円相場の上昇につながったと考えられます。

■また通貨先物市場や通貨オプション市場では、ドル高・円安に備えた投機的な取引もみられ、これらもドル高・円安の進行に影響した可能性があります。

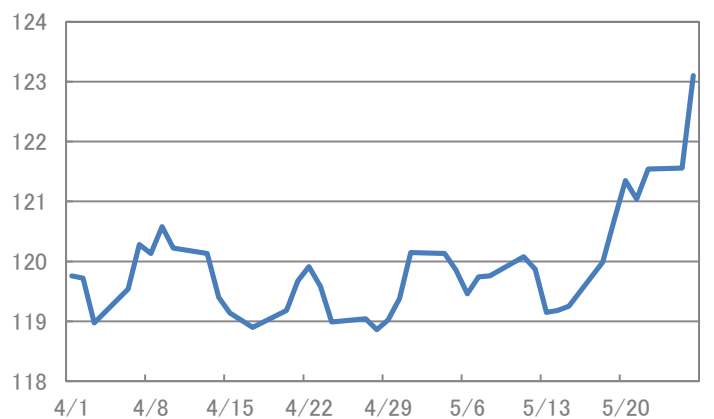
今後の展開 米金融政策をにらみつつ、しばらくドル高円安地合いが続く可能性

■日本国内に目を向けると、日銀は5月21日、22日の金融政策決定会合で政策方針の現状維持を決定し、景気判断を小幅に上方修正しました。また黒田総裁は同日の記者会見で、現時点で追加緩和が必要とは思っていないと述べており、強力な円安材料となり得る日銀の追加緩和については、早期実施の期待が大きく後退しています。

■ドル主導の相場が続くなか、仮に米国の利上げが年内に開始され、その後の利上げペースが極めて緩やかなものになれば、ドルの上昇ペースもそれに沿った動きとなる可能性があります。円安材料は乏しいものの、ドル円は米金融政策をにらみつつ、しばらくドル高円安地合いが続く可能性があります。

(円/ドル)

【ドル円相場の推移】

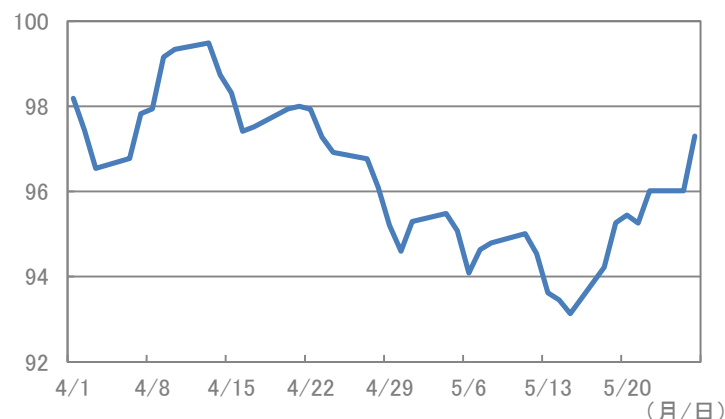


(注) データの期間は2015年4月1日～5月26日。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント)

【ドル指数の推移】



(注) データの期間は2015年4月1日～5月26日。ドル指数はインターコンチネンタル取引所が算出するドルの総合的な価値を表す指標。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2015年05月22日 日銀政策と株式市場の動向

2015年05月22日 「FOMCメンバー」の顔ぶれ(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。